

2012 年 12 月 3 日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 満田 夏花

コスタリカ国ラス・パイラス 地熱開発事業（協力準備調査（有償））
ドラフトファイナルレポートに対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2012 年 11 月 19 日（月）14:00～17:00
- ・場所：JICA 本部（会議室：1 階 111 会議室）
- ・ワーキンググループ委員：石田委員、高橋委員、谷本委員、原嶋委員、日比委員、満田委員
- ・議題：コスタリカ国 グアナカステ地熱開発事業 協力準備調査に係るドラフトファイナルレポートについての助言案作成
- ・配付資料：
 - 1) スコーピング案助言対照表
 - 2) グアナカステ地熱開発事業ドラフトファイナルレポート
 - 3) グアナカステ地熱開発事業ドラフトファイナルレポート_添付 1
 - 4) グアナカステ地熱開発事業ドラフトファイナルレポート_添付 2
 - 5) EIA
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン（2010 年 4 月）

全体会合（第 31 回委員会）

- ・日時：2012 年 12 月 3 日（月）14:30～18:03
- ・場所：JICA 本部 229 会議室

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 地下水及び地下の熱エネルギーを利用する権利は法律上どのように担保されているのか明記すること。また、国立公園内の地熱エネルギーを利用する法律について記述すること。

代替案の検討

2. Janzen 氏の論文『コスタリカ北東部グアナカステ自然保護区 Mundo Nuevo セクター及び Pailas セクターの野生生物多様性に関する予備的考察』の詳しい書誌情報を開示すること。
3. 国立公園境界沿いに発電所を含む施設の建設を集中させる理由を明記すること。
4. 6.2におけるGHGの排出量の評価についてはコスタリカ国の再生可能エネルギー政策動向を踏まえた上で再評価を検討すること。また、排出削減量、特に火力発電所との比較による削減量については精緻な前提条件を考慮し評価を再検討すること。

スコーピングマトリックス

5. 地球温暖化への影響（排出）については、助言17（本助言案4）の結果を勘案し、再検討すること。
6. 還元井及び生産井の耐用年数を記述すること。
7. アクセス道路のルートを示し環境影響評価を行い、必要に応じて緩和策を策定すること。
8. 地域資源としての地熱エネルギーの有効利用についても評価すること。

環境配慮

9. 希少動物も生息する国立公園地域に隣接することから、低周波を含む騒音・振動の動物への影響について検討し、その結果を記載すること（代替案の検討、スコーピング表、影響評価表、モニタリング計画を含む）。また、水質および騒音については、その評価を踏まえ再検討すること。
10. 冷却塔からの水蒸気等の植生影響について、影響が考えられないことも含めて、スコーピング表、影響評価表に記載すること。
11. 対象地域の動物に関する調査結果（7.1.(7)(b)）はプロジェクト実施区域区分（7.1.2.(1)）に従って記述すること。
12. 掘削汚泥を含む残土の処理方法について廃棄物の適正な処理方法を記載すること。また、掘削汚泥に伴う水質及び土壌への影響について（影響が発生しない場合も含めて）記載すること。
13. 隣接保護区の自然環境の状況（植生、絶滅危惧種・固有種の生息状況など）について、記述すること。
14. 対象地域の動植物の個別種の植生、生息状況だけでなく、生態系としての評価を記述すること。また、絶滅危惧種に加えて固有種の有無についても記述すること。
15. 対象地域およびその周辺で保護下にある動植物種については、どのような保全・保護の施策が実施されているかを記述すること。

16. 動植物の分布、生息地域、植生、絶滅危惧種・固有種等との関連を考慮に入れた上で、モニタリング地点、頻度、方法を含むモニタリング実施計画を策定するよう、本報告書で提言すること。
17. 動植物、生物多様性に関する環境配慮計画の策定および実施にあたり、専門家、研究者、NGO、コミュニティの参画についてより具体的に記述すること。
18. クルバンディ集落の要望で、今後の取水・送水計画について地図上で説明すること。
19. 掘削および発電所建設工事のみならず、道路や送電線による土地の改変についても記述すること。

ステークホルダー協議・情報公開

20. 参加者の男女比や年齢層、職業などの情報について追記すること。

以 上